

## 39th IAHRでの研究発表



目で見る  
海外論文発表

オウ ゲツ キ  
王 玥 儀\*

Presentation at 39th IAHR World Congress 2022

Key Words : Shallow Lake; Hypoxia; Diurnal stratification;  
SCHISM; Unstructured grid

### <参加会議名>

39th The International Association for  
Hydro-Environment Engineering and Research  
(IAHR) World Congress.

<開催場所> Granada, Spain

<渡航期間>

2022年6月18日~2022年6月26日

<発表タイトル>

Numerical Simulation to Analyze the Effect of  
Diurnal Stratification on Bottom Hypoxia  
Development and Recovery in Lake Kasumigaura,  
Japan

私は、2022年6月18日~26日にグラナダで開催された39th The International Association for Hydro-Environment Engineering and Research (IAHR) World Congressに参加し、「霞ヶ浦の底層における貧酸素の発生と回復に対する日成層の影響の解析」について口頭発表しました。IAHRは、1935年に設立された、水理学および水環境工学に関連する分野で活動するエンジニアと研究者による世界的な組織です。その分野は河川から海洋までの水にまつわる力学である水理学、水循環と水利用を扱う水文学（すいもんがく）や水資源工学、例えば魚道の設計などを行う環境水理学まで幅広い。第

39回 IAHR 国際大会のテーマは「雪から海へ」で、現在と未来の挑戦に対応するために全体の水循環を重視していました。基調講演では、ハーバード大学応用物理学博士 Nadia Pinardi 教授やスペイン水務総局長の Teodoro Estrela Monreal 教授による講演があり、最先端のグローバル海洋観測システムと、近年発生している重要な社会、環境、制度の変革を背景にした水資源管理における挑戦を紹介しました。

今回、私は浅水湖で形成されやすい、日中にのみ形成される温度成層が湖底の溶存酸素の低下と回復過程に与える影響について、データ収集と数値シミュレーションを組み合わせて解析を行い、温度成層が溶存酸素濃度の低下を促進していることを示す数値計算結果の発表を行いました。質疑応答では、浅い湖に密接な影響を与える気象条件、すなわち風場の設定に関して議論することができ、有意義な研究発表になりました。

私にとって初めての国際会議への参加は、最先端の専門知識を知るだけでなく、他の研究者と交流する貴重な機会にもなりました。このような貴重な機会を支援していただいた生産技術振興協会に、厚く御礼申し上げます。



\* Yueyi WANG

1994年5月生まれ  
現在、大阪大学 大学院工学研究科  
地球総合工学専攻みず工学領域  
大学院生 修士  
専門/環境水理学  
TEL : 070-4331-7998  
E-mail : yueyi@civil.eng.osaka-u.ac.jp



開会式



研究発表の記念撮影



会場での写真